

# 小牧の野鳥

## 小牧市自然環境観察人

### はじめに

小牧市自然環境観察人制度は市内の自然環境を保全・調査することを目的に平成19年度から始まりました。その主な事業として①身近な動植物調査、②自然環境の保全に関する意識向上及び知識普及活動があります。具体的な取り組みとして①児の森定期観察、市内小学校の水生生物調査への協力、②市内児童クラブでの自然環境学習講座の開催、市民環境講座への協力、環境フェア展示物発表などを行っています。

令和3年度には「大山川散策マップ」を作成し、市内を流れる大山川の自然や見どころを紹介しました。数年前より小牧市内の自然の記録を残したいとの思いから、手始めに「小牧の野鳥」についてまとめることになりました。20名足らずの観察人の限られた観察場所による記録や写真を持ち寄り作成しました。掲載内容を検討する協議で小牧の野鳥というタイトルならば市内で観察した野鳥だけに絞るという意見もありましたが、観察人が見逃していることも考慮し小牧市周辺で撮影した写真も掲載することにしました。野鳥の種類によっては雌雄や成鳥・幼鳥で色や模様の違うものがありますが、紙面の都合で一方だけの野鳥もあります。なお市内で撮影した鳥、市外で撮影した鳥ごとに日本鳥学会の「日本鳥類目録」に合わせて掲載しています。

日本に生息する野鳥600種のおよそ6分の1の野鳥について小牧市とその周辺で確認することができました。今後、継続して観察していくと新たな野鳥も出てくると思います。ハンドブックサイズの図鑑なので、自然観察に持っていくこともできるので観察に役立てていただけると幸いです。

2023年3月

小牧市自然環境観察人

## 野鳥観察の基本

- 1 鳥の見つけ方  
鳥のいそうな場所に目をつけ声や動きに注意する。
- 2 鳥を見つけたら  
鳥は人に対し敏感なので、急に動かずじっとしている。
- 3 いつどこで見られる鳥なのかに注意しよう  
どんな時期にどんな場所で見られる鳥なのかを確認する。
- 4 大きさ・形・姿勢で何の仲間か見当をつけよう  
とまっているときの角度や体のバランスや体の大きさに注意する。
- 5 特徴的な色や模様注目しよう  
地味なものから派手なものまでいろいろな羽衣があるので、特徴的な色や模様に注意する。
- 6 動きや習性に注目しよう  
尾羽の動かし方や飛び方、歩き方などに注意する。
- 7 鳥の生活の8割は採食。その鳥が何を食べているかに注目しよう  
鳥の採食行動を知ることが識別に役立つので注目する。
- 8 繁殖期と非繁殖期  
繁殖期はおおよそ3月から7月に営巣する。
- 9 地味で識別の難しいカモの雌はそばにいる雄をヒントに  
淡水で生活するカモ類の雌はよく似ているので、近くにいる雄のカモの羽衣をヒントにする。
- 10 フィールドノートをつけておく  
日付、天候、場所、種名などを記録する。種類がわからないときは大きさ、目の色、くちばしの形と色、足の長さや色など見えたものは書きこんでおく。

## 野鳥観察のための基礎用語

- ・留鳥 同じ地域に一年中生息し、季節移動をあまりしない鳥。
- ・漂鳥 国内で季節移動をする鳥。北海道で繁殖し、本州以南で越冬するものや、高地で繁殖し、低地で越冬するものなどがある。
- ・夏鳥 春に日本より南の国から渡ってきて日本で繁殖し、秋に南の国々へ帰って越冬する鳥。
- ・冬鳥 秋に日本より北の国から渡ってきて日本で繁殖し、春に北の国々へ帰って越冬する鳥。
- ・旅鳥 渡りの途中に日本に立ちよる鳥。
- ・迷鳥 本来の生息地でない地域に迷いこんだ鳥。
- ・繁殖期 繁殖に関わる時期。おおよそ3月から7月に営巣する。  
種類によってはそれ以外の時期に繁殖することもある。
- ・成鳥 一般に年齢による羽毛の変化がそれ以上進まなくなった鳥のこと。
- ・若鳥 明確な定義はないが、一般に成鳥に対して若い鳥のこと。
- ・幼鳥 卵からかえって、羽毛が生えそろう、第1回の換羽が始まるまでの鳥。
- ・換羽 羽毛が抜けかわること。
- ・夏羽 つがい形成する時期や繁殖期の羽衣。一般に冬羽に比べて鮮やかで目立つ場合が多い。
- ・冬羽 夏羽に対して使われる言葉で、非繁殖期の羽衣のこと。
- ・さえずり おもに繁殖期に、小鳥類の雄が縄張りの宣言をするときや雌に求愛するときの鳴き声。
- ・地鳴き さえずり以外の鳴き声。
- ・混群 秋から冬の間、数種類の鳥が一緒になって行動する習性。
- ・ドラミング キツツキ類が木をつつく音。

本 編

○観察地 ○生息域他 ○特長/鳴き声

キジ<キジ目キジ科>



- 三ツ瀨、市民四季の森、新郷瀬川（犬山市）
- 里山ではなく平地の草原や田畑、河川敷などで見ることができる。耕作している畑で産卵、子育てをすることもある。
- 日本の国鳥。オスの腹部は緑色の金属光沢があり、尾羽が長く顔が赤い。地上を歩いて草の実や昆虫などを食べる。繁殖期にオスはケン・ケーンと大きな声で鳴く。メスはチョッ・チョッと鳴く。大きな羽音を立てて縄張り宣言するのを母衣打ちという。

コジュケイ<キジ目キジ科>



- ふれあいの森
- 市内ではふれあいの森で鳴き声や姿をみることが多い。用心深く人に気づくと素早く茂みに姿を隠す。
- 中国南部原産の外来種で狩猟用として放鳥されたものが野生化した。平地～低山の林内の藪に住み、地上で植物の種や芽、昆虫、クモなどを食べる。ピーチョッホイ・ピーチョッホイと大きな声で鳴くのを「ちょっとこい」と聞きなしている。

コブハクチョウ<カモ目カモ科>



○ 矢戸川（三ツ渚 2002.6）

○ ヨーロッパ～東シベリアに分布する野鳥。近年、動物園などで飼われていたものが逃げ出し、湖沼や川で観察されるケースが増えている。この3羽も岡崎城のお堀から逃げ出したものである。

○ 名前の由来はくちばしの基部にあるこぶ状の突起から。クァッ・クァッと鳴く。

トモエガモ<カモ目カモ科>



L40 cm

○ 太良池

○ 本州～九州の湖沼や川などに飛来する冬鳥。本州中部以南の日本海側に多い。コガモに混じって行動することが多い。

○ 雑食性でイネ科、タデ科などの種子や葉を好む。昼は安全な水面で休み、朝夕や夜間に採食に出る。オスの頭部のクリーム色や緑色の部分は「巴」形は和名の由来。鳴き声はグルッグルッ。

オカヨシガモ<カモ目カモ科>



- ふれあいの森（2023.2.20～26）、鷹ヶ池（2024.1.5）、木曽川、蓮池（犬山市）
- 全国に飛来する冬鳥で、比較的海岸に近い湖沼にいる。普通は数羽でいるが、ほかのカモ類に混じることもある。
- 昼間は水に浮かびながら休息し、夜間に水田や湿地に出かけ採食する。オスはグェツ・グェツ、メスはクァー・クァーと鳴く。

ヨシガモ<カモ目カモ科>



- 太良池、木曽川（犬山市）
- 本州、四国、九州に冬鳥として局所的に飛来する。朝夕や夜間に水田や湿地で水草や水生昆虫などを食べる。
- オスの冠羽はナポレオンの帽子を目深にかぶったような形をしている。鳴き声はホイップルルル。

ヒドリガモ<カモ目カモ科>



- 太良池、矢戸川、木曽川（犬山市）
- 全国で普通に見ることができる冬鳥。ほかの淡水カモ類よりも海上に出る傾向が強い。湿地では草の葉、海辺ではアオノリなどの藻類を食べる。
- 群れで生活し、オスはピュー、ピュー、メスはグワー、グワーと鳴く。

マガモ<カモ目カモ科>



- 太良池、大山川、合瀬川、木曽川（犬山市）
- 冬鳥として多数が飛来。越冬地では湖沼や河川、入り江などに大軍で生息。昼は水面で休み、夜間に湿地や水田で採食する。
- オスの頭部は緑色光沢のある黒色。胸との境目に白い首輪があり、くちばしは黄色。飼育鳥のアヒルの原種。グエー、グエー、グエーイー。グググ。と鳴く。

オナガガモ<カモ目カモ科>



- 鷹ヶ池（2024.1.5）、木曽川（犬山市）
- 本州から九州に多数が飛来し、湖沼や河川などで越冬する。夜間に水田や湿地に出て水草や水生昆虫などを食べる雑食性。長い首を生かし水底からも食物をついばむ。
- 名前の通り長く伸びた尾羽が特徴。ピュル、ピュルと笛に似た声や雌はクワックワツと鳴く。

カルガモ<カモ目カモ科>



- 市民四季の森、ふれあいの森、太良池、鷹ヶ池、合瀬川、矢戸川
- 国内の平野部に多く生息し、普通に繁殖する最も身近なカモ類。河川や湖沼、水田、干潟などに住む。
- ほかのカモ類と違い雌雄同色の褐色でくちばしの先が黄色い。水面を泳ぎながら逆立ちになって水生昆虫や水草などを食べる。鳴き声はグエーグエーグエ、グエ。

ハシビロガモ<カモ目カモ科>



- 太良池、矢戸川、合瀬川（北名古屋市）、蓮池（犬山市）
- 本州より南に冬鳥として飛来。湖沼や河川などに群れて住む。
- 独特の大きなくちばしでプランクトンや植物の破片など吸い込み、くちばしの上下にある歯ブラシ状のもので食物をこしとる。写真はメスであるが、オスはマガモのように頭部が暗緑色。クェツ、クェツと鳴く。

コガモ<カモ目カモ科>



- ふれあいの森、太良池、鷹ヶ池、大山川、合瀬川
- 全国で普通に見られる冬鳥。越冬地では数羽から小群で、湖沼や河川のアシなどが生える岸边近くにいることが多い。公園の池などに飛来することもある。飛翔時に隊列は組まない。
- 主食はイネ科などの草の実や茎葉。オスは目の周囲に覆面のような暗緑色の帯がある。オスはピリッピリッ、メスはクェクェクと鳴く。

ホシハジロ<カモ目カモ科>



- 太良池、市民四季の森、鷹ヶ池
- 北海道～九州に数多く飛来する冬鳥。水中に潜って採食する潜水ガモ類だが、海に出ることは少なく、湖沼や広い川などに数羽～数十羽の群れで住む。水草やイネ科、タデ科などの種子を食べる。
- オスは オスは茶色い頭部に赤い眼が特徴的。冬はほとんど鳴かず、キュッという鳴き声をあげる。

キンクロハジロ<カモ目カモ科>



- ふれあいの森、鷹ヶ池
- 冬鳥として北海道～九州に多数飛来。越冬地では湖沼や広い川、池などに数羽～数十羽の群れで住み、渡りの時期には群れになることもある。ホシハジロと同じように海に出ることは少なく、潜水して貝や魚などをよく食べる。
- オスは後頭に垂れ下がる冠羽があり、黄色い目が特徴的。メスにも短い冠羽がある。冬はほとんど鳴かず、鳴き声はフィー。クッ、クッ。クルル。

ミコアイサ<カモ目カモ科>



- 太良池、鷹ヶ池、市民四季の森
- 冬鳥として北海道～九州に普通に飛来する。潜水して魚を捕って食べる。
- オスの美しい色彩が巫女の衣装に似ていることが和名の由来。パンダガモの愛称で親しまれている。

カイツブリ<カイツブリ目カイツブリ科>



- ふれあいの森、太良池、鷹ヶ池
- ほぼ全国で繁殖する留鳥。主に平地の池や湖に住み、秋冬には川の下流域で見られる。歩くのが苦手で、水上生活が主である。30秒近くも潜水し、フナやタナゴなどの魚類や水生昆虫を捕食するほかヒシの実なども食べる。
- 鋭いくちばしの基部に黄白色部があり目は黄色。鳴き声はケレケレケレ、ピッ、ピリオン。

カンムリカイツブリ<カイツブリ目カイツブリ科>



○ 太良池、鷹ヶ池、木曽川（犬山市）

○ 本州以南に飛来する冬鳥。海岸や海に近い淡水湖沼や河口に多く、内陸に入ることもある。50秒ほども潜水でき、魚類をはじめ水生昆虫や水草などを食べる。

○ 黒色の冠羽が冠をかぶったように見えることから命名。日本のカイツブリ類では最大の大きさ。

キジバト<ハト目ハト科>



○ 2021 3 9 小牧山、ふれあいの森

○ 全国の低林地や農耕地、市街地の公園などで普通に見られる留鳥。地上を歩きながら草や木の実を食べる。のうで作るピジョンミルクで雛を育てる。

○ 翼は明るい茶褐色で縁どられ、首に青白色と黒の斑紋がある。枝や電線にとまりデデッポー、デデッポーと低い声で鳴く。

アオバト<ハト目ハト科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 北海道～九州の広葉樹林に住む留鳥。木の芽、サクラやクワなどの果実、どんぐりなどを樹上や地上に下りて食べる。
- 腹は白色で背中濃緑色。つがいや少数の群れでいることが多く、海水を飲みに海岸に飛来することもある。繁殖期の鳴き声はアーオ、アーオ、アーオ。

カワラバト（ドバト）<ハト目ハト科>



- 小牧山
- ユーラシア大陸に分布する野生種から伝書鳩などの家禽として作られたものが野生化。
- 市街地の環境にすっかり定着している。色彩にはさまざまなものがある。クックークッカー、グルルルグルルルと鳴く。羽ばたきながらポポポと鳴くこともある。

コウノトリ<コウノトリ目コウノトリ科>



L112 cm

- 大草 (2024.8.3)
- 全国各地に留鳥として生息していたが、狩猟や開発のため 1971 年に野生種は絶滅。兵庫県高岡市で人工繁殖させた個体を自然に戻す計画が進められている。この個体は足環から 2022 年 5 月 7 日鳥取県北栄町の野外でふ化、7 月 11 日巣立った J 0 4 7 8 オスのスイカちゃん。
- 太く長いくちばし、目の周り赤いふちどりや赤い脚でツルと区別。水田や湖沼を好みドジョウやコイなどの魚を捕食する。

カワウ<カツオドリ目ウ科>



- 太良池、鷹ヶ池、市民四季の森、ふれあいの森、合瀬川
- 本州以南の河川や湖沼に住む留鳥。水中で魚を捕え、水面に出てから飲み込む。
- かつては数多くの繁殖地（コロニー）があったが、時代とともに減少した。繁殖地減少の原因は、リンを含む糞による営巣木の枯死や都市化による環境悪化や水質汚染。雛には口移しで吐き戻した魚を与える。繁殖期にグルル、グルル、グワッ、グワッと鳴く。

サンカノゴイ<ペリカン目サギ科>



L 70 cm

○ 太良池 (2025.10.26)

- 北海道と本州で少数が繁殖するが、多くの地域では少ない冬鳥。本州以南で少数が越冬している。平地の湖沼周辺の葦原に住み、開けた場所にはめったに出ない。
- 頭上が黒く、体は麦わら色で黒褐色の複雑な斑。脚とくちばしが黄緑色。ポーポーポーと低い声で鳴く。

ゴイサギ<ペリカン目サギ科>



○ 三ツ渚

- 本州から九州の各地で繁殖する留鳥。夜行性で、昼間は水辺の林や藪で眠り、薄暗くなってから池沼や水田、葦原に出てザリガニ、カエル、魚などを捕食する。平家物語によると醍醐天皇の勅命に素直に従って捕まったため「五位」の位を授けられたといわれている。
- 腹は白く、翼と尾は灰色。幼鳥や若鳥は褐色の地に白斑をもち「ホシゴイ」と呼ばれる。繁殖期はグァーグァー、飛翔時はゴァーゴァーと鳴く。

アマサギ<ペリカン目サギ科>



- 三ツ渚
- 本州～九州に飛来する夏鳥。農耕地や川原、湖沼などで繁殖する。近年、繁殖地を北に広げつつあり北海道でも見られる。乾いた草地を好み、食性も草原の鳥に近く魚よりも昆虫やカエルなどが主食。
- くちばしが橙黄色で脚は黒。夏は頭部～首および背中羽がオレンジ色。大型の家畜や草食動物について歩き、それにたかる虫や飛び立つバッタなどを食べる。繁殖期以外はあまり鳴かず、鳴き声はグワー、グワー。

アオサギ<ペリカン目サギ科>



- ふれあいの森、市民四季の森、太良池、矢戸川、境川
- 北海道～四国、対馬で繁殖し、北方のものは冬期に暖地へ移動する。湖沼や川、水田、干潟などの水辺に住む。高木の樹上や梢に小枝や枯草を使い大きな皿状の巣を作る。
- 日本で最大のサギ。全体的に明るい青灰色。くちばしと脚は橙黄色。冠羽はなく、雌雄同色。繁殖期はゴアー、クァー、飛翔時はクァッと鳴く。

ダイサギ<ペリカン目サギ科>



- 市民四季の森、ふれあいの森、太良池、小牧山、矢戸川
- 関東地方～九州の各地で繁殖し、冬は多くが南へ移動する。川や湖沼、湿地、干潟などに生息。脚が長いのでほかのサギ類よりも深い水辺で採食できる。魚類のほか甲殻類なども食べ、獲物を見つけると長いくちばしではさみとる。
- シラサギ類では最大で、くちばし、脚、首が長い。首を垂直に伸ばして立っていることが多い。繁殖期はグワー、グワー、ゴァー、ゴァーと鳴く。

コサギ<ペリカン目サギ科>



- 合瀬川
- 本州から九州の水辺で普通に見られる留鳥。平地から盆地の川や湖沼、水田に住み、ドジョウ、フナ、ウグイ、などの魚類、カエル、ザリガニなどを食べる。コロニーを作り樹上に営巣する。
- 日本のシラサギ類で最小。首をS字にするか、伸ばしていることが多い。くちばしと脚が黒く、足指は黄色。夏は頭部に2本の長い冠羽、背中に飾り羽がある。

ヒクイナ<ツル目クイナ科>



○ 大山川、新合瀬川（犬山市）

○ 夏鳥として全国の湿地に繁殖する。東海地方以西では越冬するものも多い。平地～低山の湖沼や川、水田や葦原に生息。警戒心が強く、他のクイナ同様に見つけるのが難しい。主食は昆虫で、カエルや小魚、草の実も食べる。

○ 前頭から上腹が赤褐色で下腹から下尾筒に黒白の横斑、背面は灰緑褐色、脚は赤。キョツ、キョツ、キョツ、キョキョロロロと鳴く。

オオバン<ツル目クイナ科>



○ ふれあいの森、市民四季の森、太良池、鷹ヶ池、矢戸川

○ 北海道～本州中部で局地的に繁殖し、北方のものは暖地に移動して越冬する。水面を泳いだり潜ったりして、水草のほか昆虫なども食べる。足指が長く、ひれ状の水かきをもち水上生活に適している。

○ 黒い体に白いくちばしと額板。脚は大きく暗黄灰色。キョン、キョンと高い声で鳴く。

ツツドリ<カッコウ目カッコウ科>



○ 小牧山

- 北海道～九州の山林に飛来する夏鳥。渡りの途中には市街地の公園や街路樹にも姿を見せる。ガの幼虫や甲虫などの昆虫を捕えて食べる。托卵で繁殖し、センダイムシクイやメボソムシクイ、アオジ、ビンズイなどの巣に卵を産みつける。
- 黒色の尾羽には白斑が並び、胸から腹は白く黒色の横縞模様。ポポポポと竹筒を叩くように鳴くことから筒鳥と命名された。

ケリ<チドリ目チドリ科>



○ 三ツ渚、村中、太良池

- 留鳥として本州各地に住むが、東海から近畿に多い。水田や川原、畑や草原などの開けた場所で生息。昆虫を食べ、地上で営巣する。警戒心が強く人やカラスなどの侵入者に対し、上空を旋回しキリッ、キリリリと警戒の鳴き声をあげる。この鳴き声が和名の由来。
- くちばしは黄色で先が黒い。頭から胸が暗青灰色で白い腹との境は黒帯があり背は茶褐色。

イカルチドリ<チドリ目チドリ科>



- 太良池
- 本州～九州の各地で生息・繁殖する。川の中流から上流の川原や中州に住む。水辺の地上や浅い水域で、主に昆虫を捕食する。
- コチドリよりも長めのくちばし。脚は淡黄色、目の回りや胸の帯も淡い色。繁殖期の飛翔時にピオ、ピオ。ピッピッピッピッと鳴く。

コチドリ<チドリ目チドリ科>



- 太良池、矢戸川
- 全国各地に飛来・繁殖する夏鳥。主な生息地は川の中流から下流にある砂礫の川原。主食は昆虫。
- 目の周囲と脚は黄色。頭部に白黒の斑紋。胸には黒帯があり、くちばしは黒。繁殖期の飛翔時にピオ、ピオ。ピュー、ピューと鳴く。

タシギ<チドリ目シギ科>



○ 太良池、矢戸川

○ 旅鳥または冬鳥として全国各地に飛来する。水田や沼地、川原などの草の生えた湿地に住む。用心深く歩きながら、長いくちばしを泥に差し込み昆虫の幼虫やミミズなどを食べる。

○ 長くまっすぐなくちばし。頭側線、通眼線、頬の線が黒くて明瞭。背に灰色の線がある。飛び立つときにジェッ。ジュイッと鳴く。

クサシギ<チドリ目シギ科>



○ 市民四季の森

○ 旅鳥として日本各地に飛来。水田や川、池沼の縁などにいる。水辺や砂泥地を歩きながら、水生昆虫や甲殻類などを食べる。

○ 頭上から上面が灰黒褐色で細かい白斑をもつ。下面が白い。夏羽は顔から胸に黒褐色の縦斑。

イソシギ<チドリ目シギ科>



- 市民四季の森、合瀬川（大口町、北名古屋市）
- 北海道～九州で繁殖。繁殖地では川や湖沼などの水辺に住み、岸辺に枯草で営巣する。外敵が近づくと擬傷行動を行う。
- 背面は緑がかった暗灰褐色。腹面の白が翼の付け根に食い込んでいる。脚は黄褐色、飛び立つときや飛翔中にチーリーリーリー、ツーチャーチャーと鳴く。

ミサゴ<タカ目ミサゴ科>



- 太良池、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 全国で繁殖する留鳥。猛禽類には珍しく魚食を専門とするので、海岸や湖に住み水面の上空を飛び回って獲物を探す。
- 頭部は白く、黒い過眼線。頭頂の羽毛が冠羽状。背面は黒褐色で腹面は白色。胸の黒褐色帯。キョッキョッキョッキョ、キーツ、ピツと鳴く。

ハチクマ<タカ目タカ科>



- 小牧山、兒の森、本宮山（犬山市）
- 北海道～本州の山林で繁殖する夏鳥。丘や山麓の森林に住み、主に蜂の幼虫やさなぎを捕食。カエルや蛇なども捕る。
- 上面は暗褐色で下面は淡褐色から黒色。個体による色彩変化著しい。飛翔中に翼の前縁から出る頭部の長さが他のタカ類より長い。ピー、ヨーと大きな声で鳴く。

トビ<タカ目タカ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 北海道～九州の平地や山地に留鳥として生息する。市街地でも普通に見られ、海岸付近や川沿いの町に多い。肉食だが生きた獲物を捕ることは少なく、動物や魚の死骸やごみなどを食べる。一般にトンビと呼ばれる身近なタカ。
- 尾は真ん中がへこんだ M 形で、飛ぶと三味線のバチ型に広がる。飛びながらピーヒョロロロと鳴く。

ツミ＜タカ目タカ科＞



- 兒の森、本宮山（犬山市）
- 北海道～九州の山林で繁殖する夏鳥。縄張り内の木の枝にとまり、飛んできたスズメやツバメなどの小鳥を捕食。
- 日本に生息する最も小さいタカで、ヒヨドリほどの大きさ。オスの下面は白色で、脇が橙色を帯びる。メスの下面は白色で褐色の横斑が濃い。ピョーウピョウピョウピョウと鳴く。

ハイタカ＜タカ目タカ科＞



- 小牧山、市民四季の森、兒の森
- 北海道～本州の低山から亜高山帯の林で繁殖。冬期は全国的に見られ、平地の林や農耕地にも飛来する。小型の鳥を狩るが、ネズミなどを捕えることもある。
- ハトほどの大きさの小さなタカ。白い眉斑。下面は白色でオスには橙色の横縞、メスには褐色の横縞がある。繁殖期にキーキーキーと鳴く。

オオタカ<タカ目タカ科>



- 小牧山、兒の森、市民四季の森
- 北海道～本州の山林で繁殖する留鳥。行動範囲は広く、農耕地や住宅地近くにも現れる。主にハトやムクドリ、カモなどの鳥を捕食し、ネズミなどの哺乳類を狩ることもある。
- 上面は暗青灰色。下面は白色で黒い横斑が並ぶ。明瞭な眉斑。黄色い脚が特徴。繁殖期にキッ、キッ、キッと鳴く。

サシバ<タカ目タカ科>



- 兒の森、本宮山（犬山市）
- 本州～九州の山林で繁殖する夏鳥。丘や山麓の森林に住み、水田などの開けた場所で、ヘビやカエル、トカゲ、ネズミなどを捕食する。秋の伊良湖岬では一日に千羽を超す渡りを観察することもある。
- 上面は褐色、下面は白っぽく褐色の横斑が密。白いのどの中央に黒い線がある。ピッ、クエー。ピッ、ピューイと鳴く。

ノスリ<タカ目タカ科>



- 兒の森、ふれあいの森、小牧山、太良池、本宮山（犬山市）
- 本州中部以北の山林で繁殖する留鳥。秋冬には低地や暖地に移動するので、全国的に見られる。草地や農耕地、川原などの開けた場所で、ネズミやカエル、ヘビ、鳥、昆虫などを捕食する。
- シルエットがずんぐりとしたタカで上面は褐色で羽縁が淡い。のどにひげ状の褐色斑。飛翔時下面の翼角にある黒斑が特徴。繁殖期にピーエーとよく鳴く。

フクロウ<フクロウ目フクロウ科>



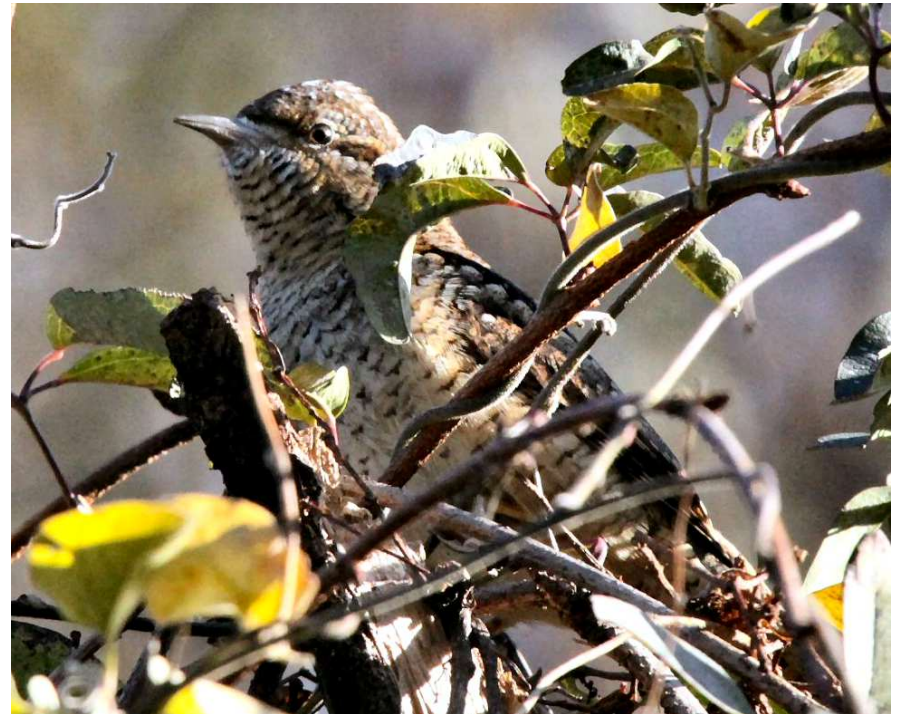
- 小牧山、ふれあいの森
- 北海道～九州の山林に住む留鳥。大木のある社寺林や公園などで見られることもある。夜行性で昼間枝にとまっているときには、ほとんど動かず目を閉じて休んでいる。ネズミを主食とするが、小鳥や昆虫なども食べる。
- 頭、背、腹に濃褐色の縦斑。頭部全面は平面的で目は黒色。夜、ポポー、ゴロスケホーホーと鳴く。

カワセミ<ブッポウソウ目カワセミ科>



- 市民四季の森、大山川、ふれあいの森、合瀬川、矢戸川、境川
- 全国の平地から山地の川や池、湖などの水辺に住む。水面に張り出した枝や岩などにとまって水中の獲物をねらい、直接または空中でホバリングしてからダイビングして捕える。魚が主食だがザリガニや水生昆虫なども食べる。
- 背はコバルト色で、頭上や翼が金属光沢のある緑色。目の下と胸から腹はオレンジ色。脚は赤く、メスは下くちばしの基部が赤い。

アリスイ<キツツキ目キツツキ科>



- ふれあいの森、太良池 (2025.10.27)
- 本州中部以南から九州の林や葦原などで越冬する漂鳥。他のキツツキ類のように幹に縦にとまらず、横枝に普通にとまる。長い舌を伸ばしアリを好んで食べることから和名がつけられた。
- 上面全体は褐色を帯び、灰色や黒色の斑模様。背中央に黒色の縦線。繁殖期にクィクィクィと鳴く。

コゲラ<キツツキ目キツツキ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 全国の林に住む留鳥。樹木が多く太い木のある場所なら繁殖する。樹木の下から上、幹から枝へ移動しながら樹皮をつついて食べ物の昆虫を探す。冬、シジュウカラやメジロの群れと一緒にいることもある。
- 体の上面は黒褐色。背と翼に白色の横斑。下面は灰白色。ギーギー。キッキッキと鳴く。小さな体のわりに大きなドラミングをする。

アカゲラ<キツツキ目キツツキ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北海道～本州の林に住む留鳥。落葉広葉樹林などの明るい林を好み繁殖する。他のキツツキ類と同様に、縦に木の幹を登りながら、くちばしで樹皮をつつき昆虫類を食べる。
- 背中に白色の大きな斑紋。腹面は淡黄白色で下腹部と下尾筒は赤色。キョッキョッキョッ。ケッケッケツと鳴く。大きな音でドラミングをする。

アオゲラ<キツツキ目キツツキ科>



- 市民四季の森、兒の森、ふれあいの森
- 本州～九州の森林に住む留鳥。日本だけに分布するキツツキで、本州中部以南の常緑広葉樹林に生息する。樹木の幹や枝をくちばしでつつき、昆虫を長い舌で食べる。
- 体の上面は黄緑色。オスは前頭から後頭にかけてと顎線が赤色。キョッ、キョッ。ケレケレ。ピヨーと鳴く。大きな音でドラミングをする。

チョウゲンボウ<ハヤブサ目ハヤブサ科>



- 三ッ渕
- 本州北部～中部で繁殖する。海岸や川岸、山地の丘陵などの崖の窪みを利用して営巣する。近年、市街地のビルやベランダなどに営巣する例が増え分布を広げている。田畑、川原などの開けた場所で、杭や電柱からネズミやバッタ、小鳥を狙いホバリングから急降下し獲物を捕らえる。
- 背は茶褐色。下面は白色の地に黒い縦斑。尾は長めで先に黒帯。繁殖期にキッキッキッと鳴く。

チゴハヤブサ<ハヤブサ目ハヤブサ科>



- 兒の森、ふれあいの森
- 北海道～本州北部で繁殖し、秋に東南アジア等に渡る個体を見ることができる。田畑や草原などの開けた場所の高いところから飛び立ち、小鳥やトンボなどを追いかけて捕える。
- 翼が長く、先が尖っている。尾が青灰色、下面は赤褐色。繁殖期にキッキキッと鳴く。

ハヤブサ<ハヤブサ目ハヤブサ科>



- 兒の森
- 北海道～九州で局地的に繁殖。海岸や海辺の断崖や急斜面で生息するが、市街地のビル街で見られることもある。ヒヨドリ大の飛んでいる小鳥を脚で蹴落として襲う。地上でネズミやウサギを捕えることもあり、市街地ではドバトをよくねらう。
- 上面は薄墨色で、頬にはひげ状の黒斑。下面は白く、のどを除いて細かい黒色横斑がある。あまり鳴かないが、鳴くときはキィキィキィ。

サンショウクイ<スズメ目サンショウクイ科>



○ 小牧山、ふれあいの森、兒の森

○ 本州以南に広く飛来する夏鳥。高い木のある広葉樹林を好み、枝先にとまって昆虫やクモなどを捕食する。飛行しながら空中で昆虫を捕えることもある。

○ 上面は灰色から黒色で下面はと額は白。オスは頭頂から後頭が黒色で、メスは灰色。体は細く、尾も長め。和名の由来は鳴き声がヒリリヒリリと聞こえ、辛い山椒の実を食べたとの連想からと言われる。

サンコウチョウ<スズメ目カササギヒタキ科>



○ 小牧山、ふれあいの森、兒の森

○ 本州から九州の山地や丘陵の林で繁殖する夏鳥。平地から低山の樹木のよく茂った暗い広葉樹林で生活する。飛んでいる昆虫を見つけると、ヒラヒラと舞うように追いかけてフライングキャッチする。

○ オスの長い尾。くちばしと目の周囲はコバルトブルー。頭部の冠羽が特徴。チーチョホイ、ホイホイホイの鳴き声を、ツキヒホシ（月日星）と聞きなして三光鳥と名づけられた。

モズ<スズメ目モズ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 北海道～九州の林や人里に生息する留鳥。秋から冬は雌雄とも1羽ずつで縄張りを持ち、目立つ高いところで尾を振りながら縄張り宣言の高鳴きをする。肉食性でバッタやカエルなどを食べ、獲物を木の枝に刺す「はやにえ」という習性がある。
- 頭が大きい。尾が長く回すようによく振る。高鳴きはキィーキチキチ。他の鳥の声をまねることもある。

カケス<スズメ目カラス科>



- 小牧山、ふれあいの森、兒の森
- 北海道～九州の林に住む留鳥。さまざまな森林で繁殖する。林内で昆虫などの小動物を食べるほか、鳥の卵やひなを襲うこともある。秋にはどんぐりや柿の実などを食べる。
- 紫褐色の体、青色のある翼。ごま塩模様の頭頂。のどは白く、目先は黒い。ジェーッと鳴くほか、他の鳥の声をまねることもある。

ハシボソガラス<スズメ目カラス科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 北海道～九州の平地から低山までの都市、農村、海岸と幅広く生息する。昆虫や腐肉、残飯などを食べるが、農作物など植物性のものを採食する比率が高い。ハシブトガラスと混じっていることも多い。
- 額は出っばっていない。くちばしはハシブトガラスに比べると細い。ガーガーと濁った声で鳴く。

ハシブトガラス<スズメ目カラス科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 全国の都市部から高山帯まで広く生息する留鳥。昆虫、小鳥、果実、腐肉、残飯など、あらゆるものを食べ、都市部ではごみをあさることも。秋冬は集団で生活し、公園の林などに百羽以上の群れでねぐらを形成する。
- 額がでっばっている。くちばしが太く、先が曲がっている。カーカー、アーアーと澄んだ声で鳴くことが多いが、濁ることもある。

キクイタダキ<スズメ目キクイタダキ科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 北海道～本州の高山で繁殖する留鳥。針葉樹林で行動し、忙しく飛び回ってガの幼虫や昆虫、クモなどを捕食する。
- 背や胸は灰緑色、頭上は黒と黄。黒い翼に白帯が並ぶ。目の周囲が白。和名は頭頂の黄色い羽毛が、菊の花びらを載せたように見えることからつけられた。ツチツチツチツチ、ツリリリと金属的な高い音で早く鳴く。

ヒガラ<スズメ目シジュウカラ科>



L11 cm

- ふれあいの森 (2013.1.19)、小牧山 (2013.3.26)
- 北海道～九州の山地で繁殖する留鳥。冬が近づくと、低地の林へ移動し、ほかのカラ類と混群になることもある。
- 雌雄同色。シジュウカラ類では最も小型。胸の黒斑が白い頬をとり巻いて頭部の黒色につながることや、翼に2本の白い帯があることで、他のシジュウカラ類と識別できる。地鳴きはツイツツイッ、さえずりはチチーチチーチチー。

ヤマガラ<スズメ目シジュウカラ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森、兒の森
- 全国の丘陵や山地に住む留鳥。シイやカシなどの常緑広葉樹林を好む。昆虫の成虫や幼虫を捕食する。秋には樹木の種子を好んで食べ、冬に備えて木の幹などに差し込んで蓄える。
- 胸や腹、背の赤褐色が目立つ。頭上やのどは黒く、頬や額は淡黄色。ツツピー、ツツピーと繰り返して鳴く。

シジュウカラ<スズメ目シジュウカラ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 全国の低地から山地の林に幅広く生息し、市街地でも普通に見られる。ガの幼虫の青虫や毛虫、木の実などを食べるが、秋冬には地上に下りて植物の種子を探す姿もよく見られる。冬、メジロやヤマガラ、コゲラなどと混群なることが多い。
- 白いお腹に黒い帯が印象的、野鳥ファンは黒い帯をネクタイに見立てている。ツーピー、ツツピー、ツーピーと鳴く。

ヒバリ<スズメ目ヒバリ科>



- 市民四季の森、三ツ渕
- 北海道～九州の川原や畑など背の低い草地に生息する留鳥。春になるとオスは上空でホバリングしながら縄張り宣言のさえずりをする。地上を歩いて草の実や昆虫を食べる。雛が襲われそうになると擬傷行動をする。
- 短い冠羽がある。淡褐色の胸に黒い斑点。さえずりはピーチュルピーチュル。

ツバメ<スズメ目ツバメ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 春になると北海道道南～九州に飛来する夏鳥。人家や歩道橋などに人通りの多い場所を好んで営巣する。空中を飛びながら飛翔する昆虫を捕食する。秋には葦原に集まり集団ねぐらを形成する。
- 額と喉のどが赤褐色。尾は長く2つに分かれる。チュチュビチュビジクビーとさえずる。

イワツバメ<スズメ目ツバメ科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 北海道～九州に夏鳥として飛来する。山間部の崖や海岸の断崖に営巣するが、近年は平野部の町中でも営巣している。ツバメよりも上空を飛び回り、飛翔している昆虫を捕えて食べる。
- 尾羽は短い。腹面は全体に白く、背面の腰も白い。ジュリ、ジュリ、ジュリ……とさえずる。

ヒヨドリ<スズメ目ヒヨドリ科>



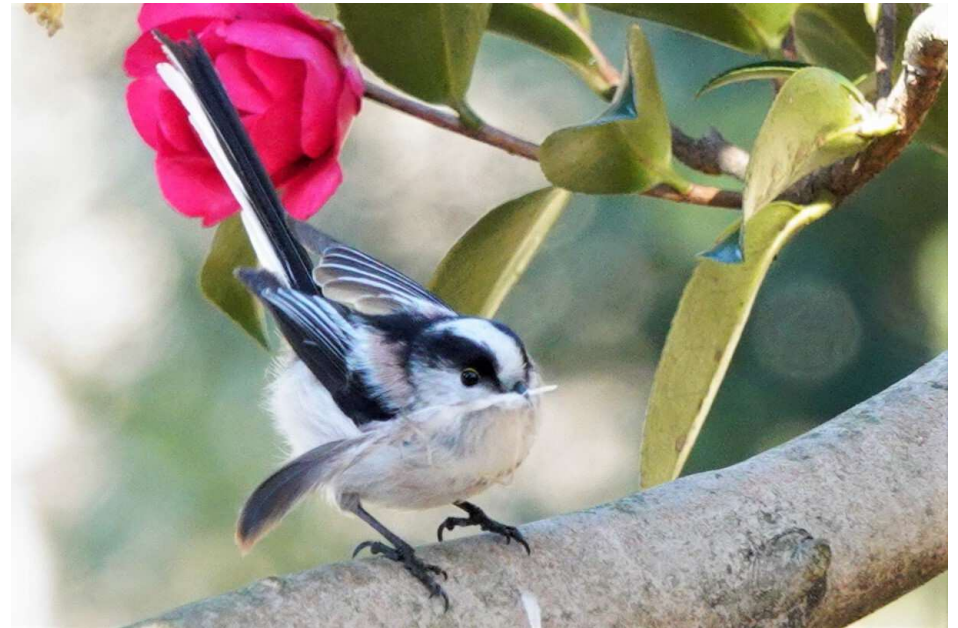
- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森、兒の森
- 全国に分布し、低地から山地や人家付近の街路樹や公園の樹木などで幅広く生息する留鳥。北国や山地で繁殖するものは秋に群れて南へ移動する。繁殖期には昆虫を好んで食べるが、秋から冬には柿の実を好み、花の蜜も吸う。
- 全体に灰色で、翼や胸は黒っぽい。頬は茶褐色。ピーピー、ピーヨと大きい声で鳴く。

ウグイス<スズメ目ウグイス科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 全国のよく茂った笹藪などで繁殖し、低地から高山まで生息する。藪の中にいることが多く、声がしても姿は見つけにくい。藪の中を活発に動きながら葉にいる昆虫を捕える。秋には木の実も食べる。
- 体はオリーブ褐色。灰白色の眉斑。尾はヤブサメ類より長い。繁殖期のオスはホーホケキョとさえずる。地鳴きはチャッチャッ。

エナガ<スズメ目エナガ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北海道～九州の山林に住む留鳥。丘陵から高山の山麓までの樹林内で生活している。市街地の公園にも飛来する。アブラムシなどの小さな昆虫やクモなどを捕食する。枝にぶら下がり逆さになることもある。秋冬には小群で行動し、シジュウカラやメジロなどと混群になることもある。
- 小さな体に長い尾。背に続く黒色の過眼線。肩や腰、下尾筒は淡い紅紫色。ジュリジュリジュリ。ツリツリと鳴く。

メボソムシクイ<スズメ目ムシクイ科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 本州～四国の高山で繁殖する夏鳥。林内を枝から枝へ移動して、昆虫やクモなどを捕食する。春秋の渡りの時期には、市街地の公園などにも飛来する。
- 上面は緑褐色。下面はく黄色味を帯びる。中雨覆の先端部分が灰白色。ジュリジュリ、ジュリジュリと特徴のある鳴き声。

センダイムシクイ<スズメ目ムシクイ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北海道～九州の低山で繁殖する夏鳥。山麓や丘陵地帯の広葉落葉樹林で生活する。渡りの時期には、市街地の公園に現れることもある。木の葉や枝にいる昆虫やクモを見つけると、飛びつくようにしてくちばしで捕食。
- 白い眉斑の上は暗色で、さらに淡い頭中央線がある。大雨覆の先端が白色。チヨチヨチヨ、ビィーの鳴き声を「焼酎一杯、グイー」と聞きなしている。

メジロ<スズメ目メジロ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森、兒の森
- 全国の低地から山地に生息する留鳥。街路樹や庭木でもよく見られる。サクラやツバキの花蜜を吸ったり、柿の実をつつく姿をよく見る。秋冬にはシジュウカラやエナガ、コゲラと混群になることが多い。
- 黄緑色の体色で細いくちばしを持ち、目の周りに白いふちどりがある。チーチュルピーチュルチーチュルと鳴く。

オオヨシキリ<スズメ目ヨシキリ科>



- 太良池
- 北海道～九州に夏鳥として飛来する。川や湖沼の葦原で生息し、水中から葦が生えている場所を好む。茎の間を移動しながら昆虫を捕食、フライングキャッチで捕ることもある。カッコウのいる地域では托卵の相手選ばれている。
- 上面はオリーブ褐色。下面は淡色で胸の側面から脇は茶褐色を帯びている。ギョギョシ、ギョギョシとさえずって縄張り宣言をする。

キレンジャク<スズメ目レンジャク科>



○ 市民四季の森

- 年によって飛来数にばらつきがあるが、全国的に見られる冬鳥。山地の落葉樹林をすみ家とするが、市街地の公園や住宅地にも現れる。数羽から数十羽の群れで行動し、ヤドリギ、クロガネモチなどの木の実をついばみながら移動する。
- 赤味を帯びた頭部に黒い過眼線と冠羽。尾や翼の先は黄色。翼の白斑。チリリリリ。ヒリリヒリリと鳴く。

ヒレンジャク<スズメ目レンジャク科>



○ 市民四季の森

- 年によりばらつきがあるが、日本各地に飛来する冬鳥。樹木の多い公園や住宅地で群れていることが多い。キレンジャクと混群になることもある。ヤドリギやクロガネモチなどの実をついばみながら移動する。西日本はヒレンジャク、東日本にはキレンジャクの飛来数が多いと言われている。
- 赤味を帯びた頭部に黒い過眼線と冠羽。尾の先と下尾筒は赤色。黄色い腹。チリチリチリ。ヒーヒーと鳴く。

ムクドリ<スズメ目ムクドリ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北海道～九州に生息する留鳥。市街地や農村で普通に見られ、歩きながら昆虫や木の実を食べたりする。木の樹洞や人家の屋根裏などで営巣する。秋冬は群れて生活し、百羽を超す大集団で竹林や街路樹をねぐらにする。
- くちばしと脚はオレンジ色。顔に不規則な形の白斑。腰は白い。キュルキュル。ジャーと鳴く。

マミチャジナイ<スズメ目ツグミ科>



L22 cm

- 小牧山 (2014.4.18・25) (2023.12.26) (2024.1.12)、ふれあいの森 (2016.5.8)
- 春秋の渡りの途中、日本各地の平地から山地の林に飛来する旅鳥。秋に多く、四国、九州、沖縄などの暖地で越冬するものもいる。コシアブラやミズキなどの小さな果実を好んで食べる。地上を跳ね歩き昆虫やミミズなどを探して食べる。
- アカハラによく似るが、白い眉斑やくちばしの基下部が白く目立つ。飛び立つときにツイーと地鳴きする。

トラツグミ<スズメ目ツグミ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 全国の丘陵や低山の広葉樹林に住む留鳥。林床で採食し頭を左右に振って、くちばしで落ち葉をはねのけミミズや昆虫を探す。ピョンピョン跳ね歩くが、木の枝にじっととまっていることもある。
- 全身が黄褐色のうろこ模様に覆われる。翼下面に白色の2本線。夜にヒィー、ヒィーと鳴く。

クロツグミ<スズメ目ツグミ科>



- 小牧山
- 北海道～九州の山林で繁殖する夏鳥。林床を跳ね歩きながら、昆虫やミミズを探し食べる。
- オスは上面が黒色で、白い腹の上部や脇に黒い三角斑。黄色のくちばしと脚が目立つ。キョロイ、キョロイ、キョコキョコと鳴く。

シロハラ<スズメ目ツグミ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 本州以南に冬鳥として飛来する。低山の広葉樹林や公園などに住む。地上を跳ね歩きながら落ち葉をくちばしではねのけて、昆虫やミミズを探して食べる。センダンやカキなどの木の実も好む。
- オスの頭部は灰青色で、背や翼、腰は茶褐色。メスはオスより頭部が淡い色をしている。飛び立つときツイーと鳴く。

アカハラ<スズメ目ツグミ科>



- 小牧山、市民四季の森
- 北海道～本州中部の山地で繁殖。秋には丘陵や平地に移動して暖地で越冬する。市街地の公園に飛来することもあり、林床を跳ね歩き落ち葉をくちばしではねのけて昆虫やミミズなどを食べる。枝に残った柿の実をついばむこともある。
- 雌雄ともに頭から上面が緑灰褐色で、胸と脇が橙色。目の周囲は黄色。さえずりはキョロンキョロン。チリリ。

ツグミ<スズメ目ツグミ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 冬鳥として全国に飛来する。秋は山林で群れをなし、冬は平地におりてくる。開けた場所で足をそろえて、地上をピョンピョンと飛び跳ねるように歩く。歩いては胸をそらせたポーズで立ち止まるしぐさが特徴。ミミズや昆虫、木の実を採食する。
- 黄白色の眉斑。翼の赤褐色や胸の黒斑が目立つが、個体変異がある。クイ、クエツクエツと2声ずつ鳴く。

ワキアカツグミ<スズメ目ツグミ科>



- 市民四季の森 (2021.2～4、2022.1～3)
- まれな冬鳥または旅鳥として渡来し、北海道～本州、沖縄で記録がある。冬期には畑や水田にいて、習性はツグミに似ている。大型ツグミ類としては小形、ツグミより一回り小さい。
- 頭から尾までの上面と頬はオリーブ褐色。眉斑は白。下面は白く、脇は赤褐色。下雨覆は赤褐色。

サメビタキ<スズメ目ヒタキ科>



L14 cm

- 市民四季の森（2023.9.16）
- 北海道～本州中部の山地で繁殖する夏鳥。立ち枯れた木のある林を好む。見通しのよい枯れ枝にとまり、飛んでくるアブやハエなどをねらいすましてフライングキャッチする。
- 胸や腹脇に褐色の縦斑がある。上面は灰褐色で、翼や尾はこげ茶色味が強い。地鳴きはツイー。チュルルル。

コマドリ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山
- 北海道～九州の山地で繁殖する夏鳥。すばやい動きで地上にいる昆虫やクモ、ミミズなどを捕えて食べる。茂みの中で行動するので、姿を見ることが難しい。
- オレンジ色の頭と首。メスの胸や腹は、オスよりも灰青色を帯びず褐色に見える。ヒンカラララ……とさえずる声を馬のいななきに聞きなし、駒鳥と名づけられた。

ノゴマ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山
- 夏鳥として北海道に飛来。本州では春秋に通過し、旅鳥として市街地の公園にいることもある。尾を上げ下げしながら地上をピョンピョン飛び歩いてミミズや昆虫を食べる。
- オスはのどが鮮やかな紅色、眉斑は白い。メスは眉斑、のどともに白い。キーキョロキョロキーチリ…とさえずる。

ニシオジロビタキ<スズメ目ヒタキ科>



L11.5 cm

- 小牧山 (2024.1.19)、友人の初見は 2024.1.9
- ヨーロッパ東部～シベリアまでにユーラシア大陸に生息し、日本には数少ない旅鳥として渡来する。
- 体の上面が灰色で腹は白い。喉から胸元にかけて淡いバフ色オスの喉は赤橙色。上尾筒は灰色で嘴は全体的に鉛色をしているが、下の嘴は薄い肉色をしている。尻尾を立てるポーズが特徴的。平地から山地の明るい森林に生息し、地面と樹上を行き来しながら昆虫や木の実などを捕食する。鳴き声はギリリ ギリリ、警戒時はウソに似たフィーと鳴く。

ルリビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森、兒の森
- 北海道、本州、四国の高山で繁殖する。冬期は丘陵や公園などに移動。オスは高い木の枝にとまり、明るい声でよくさえずる。秋冬は昆虫類のほかに木の実なども食べる。
- 体の上面は、オスが青色で、メスは緑褐色。雌雄ともに脇はオレンジ色。さえずりはヒッチョロリ、チョロチョロリ、地鳴きはヒッヒッ。ギュッ。ギュッ。

ジョウビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 冬鳥として全国に飛来。田畑や林縁などの開けた場所を好み、人家の庭先にもよく姿を現わす。秋冬には雌雄とも1羽ずつ縄張りをもち、おじぎをするような仕草をしながら鳴き縄張り宣言をする。地上に下りて昆虫を捕えるほか、木の実も食べる。
- 雌雄とも翼に白斑があり、尾の両サイドと腰は赤褐色。地鳴きはヒッヒッヒ。クワックワッ。

ノビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 太良池
- 北海道～本州中部に夏鳥として飛来する。春秋の渡りの時期には中部以南でも見られる。地面や空中にいる昆虫をとまり場からフライングキャッチする。秋にはオスは換羽してメスのような体色の冬羽になる。
- オスは頭、翼、尾が黒く胸は茶色。メスの背と翼は褐色で黒い縦斑。さえずりはフィフィーチョ、チョリリ…、地鳴きはジャッジャッ。

イソヒヨドリ<スズメ目ヒタキ科>



- ふれあいの森、兒の森
- 全国の海岸地帯に留鳥として普通に生息。近年では海岸から離れた市街地のビルや山間のダムなどに営巣する例も増えてきている。
- オスは胸から上が青く、腹は赤褐色。メスは全体に褐色でうろこ模様がある。繁殖期には雌雄ともツツピーコ、ピーと美しい声で鳴く。

エゾビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、市民四季の森
- 旅鳥として春秋に全国各地に飛来する。平地から低山の樹木がまばらに生えた見通しのよい林にすることが多い。チョウ、ガなどの昆虫をフライングキャッチするほか、木の実も好んで食べる。
- 胸や腹脇に、明瞭な褐色の縦斑。上面は灰褐色で、翼に白い翼帯がある。ツイーと地鳴きする。

コサメビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北海道～九州の低山や平地で繁殖する夏鳥。さまざまな林内に住むが、飛び回りやすい空間のある雑木林を好む。林の中で飛んでいる昆虫を見つけると枝から飛び立ち、フライングキャッチで昆虫を捕え枝に戻る行動をする。
- 上面は灰褐色。目先が白い。白い胸に淡色で不明瞭な縦斑がある。地鳴きはツイー。チッ、チッ。

キビタキ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、市民四季の森、兒の森
- 日本各地の山地林で繁殖する夏鳥。樹木がよく茂った場所を好む。大きな樹木の下枝にとまり、飛んでくる昆虫をフライングキャッチする。獲物をくわえると、もといいた枝や近くに戻る。渡りの途中には、市街地の公園などに飛来することがある。
- オスの眉斑、胸、腰が黄色。のどは橙色。上面は黒色で、翼にある白斑が目立つ。メスは全体が緑褐色。ポイピリリ、ピピロピピロ。ピッピクオーシーとさえずる。

オオルリ<スズメ目ヒタキ科>



- 小牧山、ふれあいの森、兒の森
- 北海道～九州の山地や丘陵で繁殖する夏鳥。樹木がよく茂った沢沿いで生活し、谷間の上空でチョウやアブなどの昆虫をフライングキャッチする。営巣も岩や土の崖のある谷間です。春秋の渡りの途中には市街地の公園などにも姿を見せる。
- オスは上面がルリ色。頬やのどは黒色で、胸や腹、下尾筒は白色。メスは地味な赤褐色。ピーーリリ、ピールーリーリー、ジェッジェツとさえずる。ウグイス、コマドリと並んで日本三鳴鳥といわれる。

スズメ<スズメ目スズメ科>



- 市内全域
- 全国に留鳥として普通に生息する。人の住んでいる所ならどこにでもいる。家屋のすき間や枝の茂みなどに枯れ草で営巣し、年に1～3回繁殖する。秋冬は群れで生活し、竹藪や大木を集団ねぐらとする。繁殖期には昆虫を食べるが、秋冬には草の実を食べる。
- 頭は茶色で、頬に黒斑がある。翼は、茶と黒のまだら。チュンチュンと鳴く。

ニューナイスズメ<スズメ目スズメ科>



- 市民四季の森、太良池（2025.10.23）
- 本州では中部以北の山地で繁殖する。秋は関東以西の暖かい平地へ移動し越冬する。群れで生活し、水田地帯や川原などに群れで飛来することがある。
- 頬に黒斑がない。頭や背はスズメより明るい茶色。鳴き声はチーチー。

キセキレイ<スズメ目セキレイ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森、兒の森
- 全国で普通に繁殖する夏鳥。低山から高山までの水辺、とくに山麓や山間の小川や溪流を好んで済む。水辺を歩きながら昆虫やクモを捕食するが、ときには飛んでいる昆虫をフライングキャッチする。
- 頭上、頬、肩、背が青灰色で、腹面が黄色。翼と尾は黒褐色。白い眉斑。地鳴きはチチチッ、チチチッ。さえずりはチチン、チチン。

ハクキレイ<スズメ目セキレイ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 北日本で繁殖し、本州中部以南の各地で越冬する。近年は繁殖地の南限が関西地方まで下がり分布を広げている。水辺近くの田畑や市街地に住み、尾を上下に振りながら歩き昆虫を捕食。フライングキャッチも行う。
- 額と顔、腹が白く、明瞭な黒い過眼線。背面とのどから胸が黒く、翼と外側尾羽は白い。ピピッと地鳴きをし、さえずりはチピップイチャーチービ。

セグロキレイ<スズメ目セキレイ科>



- 小牧山、市民四季の森、ふれあいの森
- 日本固有種で、北海道～九州に留鳥として生息する。川や湖の岸辺を好んで住むが、水田や市街地でも見られる。採食習性はハクセキレイに似る。他のセキレイ類と同様に、縄張り意識が非常に強い。
- 頭部から胸、肩、背が黒。眉斑とくちばし下。翼と外側尾羽、腹は白色。チチウツビとさえずり、地鳴きはツビビビッビッと濁った声で鳴く。

ビンズイ<スズメ目セキレイ科>



- 小牧山、市民四季の森
- 春に北海道～本州中部と四国の山林で繁殖。秋に本州中部以南に移動して越冬する。越冬する秋冬は、地上を歩きながら植物の種子などを食べる。
- 白っぽい眉斑と目の後方に白斑がある。胸から脇腹には、黒い縦斑が並ぶ。よく似たタヒバリよりも背面は緑色を帯びる。チチチ、ピープイ、ツィーツィーと鳴く。

アトリ<スズメ目アトリ科>



○ 小牧山、市民四季の森

○ 日本各地に飛来する冬鳥。秋は山地の森林で生活し、群れをなして木の実を食べる。冬から春は低山の雑木林や農耕地などに飛来して、草木の実や落ち穂を食べる。水田地帯に大群で現れることもある。

○ 橙色の胸や脇、腰が白く、それに続く尾は黒い。橙色と黒色の翼も目立つ。キョ、キョ、キョ。チュューンと鳴く。

カワラヒワ<スズメ目アトリ科>



○ 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森

○ 北海道～九州の平地や低山の林、畑、市街地の街路樹や公園、川原などに生息する。直線的に地面に下り、草の実を食べる。秋冬には川原や田畑で群れになって住む。

○ 黄色い翼帯と M 形の尾の先。メスは全体的に褐色味が強く、くちばしはピンク。キリリコロコロ、ジュイーンとさえずる。

マヒワ<スズメ目アトリ科>



- ふれあいの森、市民四季の森
- 冬鳥として日本各地に飛来。秋に大陸から渡ってきたときには山地の林にいて、冬が近づくと山を下り丘陵や山麓で生活するようになる。ヤシヤブシの球果のすき間にくちばしを入れ、種子を取り出して食べる。
- 2本の黄色い翼帯。オスの頭上は黒色で胸は黄色、メスの頭上は黄緑色。ジュイーン、ジュイーンと鳴く。

ベニマシコ<スズメ目アトリ科>



- ふれあいの森、本宮山（犬山市）
- 北海道や青森県の一部で繁殖し、秋冬には本州以南へ移動して越冬する。越冬期は丘陵や山麓の林縁、草原、川原などで生活し、草の実をついばんでいる。マシコは猿のことで、猿の顔のような赤い色をしているアトリ科の鳥に付けられている。
- オスは全体に紅赤色を帯びるが、のどと頭が白い。翼に2本の白色の帯がある。メスは全体に茶褐色、翼の2本の白帯は同じ。

ウソ<スズメ目アトリ科>



- ふれあいの森、市民四季の森
- 北海道～本州中部で繁殖し、秋冬は山麓や丘陵、暖地に移動して越冬する。越冬期には落葉広葉樹林で小さな果実やカエデなどの種子を食べる。春先には群れになり、樹木の冬芽やサクラなどの花芽を食べる。
- 雌雄ともに黒い頭に太いくちばし。オスはのどから頬が紅桃色。地鳴きは口笛のようなフィー、フィー。さえずりはヒーヒーホー、ヒヨヒヨ、ヒッホホ。

シメ<スズメ目アトリ科>



- 小牧山、市民四季の森
- 本州以南に冬鳥として飛来する。落葉広葉樹林や雑木林を好み、エノキやカエデの種を太いくちばしで割って食べる。春秋の渡りの時には群れをつくるが、冬は単独でいることが多い。
- 太いくちばし。ずんぐりとした体。短い尾。ほとんど鳴かないが、地鳴きはツェツ、ピチツ。ツイー。

イカル<スズメ目アトリ科>



○ 小牧山、市民四季の森

○ 北海道～九州の低地から山地の落葉広葉樹林で繁殖する。秋冬は暖地や山麓、丘陵に移動する。越冬期には群れで行動し、雑木林でヌルデやエノキ、カエデなどの種子を食べる。

○ 黒く光沢のある頭。黄色く太いくちばし。初列風切の中央部に白斑。キィーコーキー、キョコ、キーと鳴く。

ホオジロ<スズメ目ホオジロ科>



○ 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森

○ 北海道～九州の明るい林縁、川原、草原などに住む留鳥。繁殖期には昆虫を多く捕らえ、秋冬はイネ科などの草の実を食べる。

○ オスは頭部に黒と白のしま模様、体は赤褐色。メスは全体的に体色が薄い。春の繁殖期になると木のてっぺんや電線などの目立つ場所を定位置にして胸を張り「一筆啓上つかまつりそうろう」と聞きなされる声で鳴いてメスを誘う。鳴き声はチョッピーチュルルピビピロピー。

カシラダカ<スズメ目ホオジロ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 冬鳥として本州以南に飛来する。地上を跳ね歩いて草の実を食べ、驚くと近くの木に逃げ込む。冠羽を立てていることが多い。
- 短い冠羽。白い腹。オスは春の渡りのころになると夏羽になり、冠羽と過眼線が黒くなる。ピーチュクピーチュクビルビルピーと鳴く。

ミヤマホオジロ<スズメ目ホオジロ科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 北海道南部と本州以南の丘陵や山麓の林で越冬する冬鳥。藪のある明るい林を好み、林内をピョンピョンと跳ね歩きながら落ちている草や樹木の実をついばむ。昆虫やクモを捕食することもある。小さな群れで行動する。
- オスは黄色い眉斑やのど、黒い冠羽や過眼線が目立つ。メスは全体的に茶褐色。チッチッと鳴く。

アオジ<スズメ目ホオジロ科>



- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 冬は根雪のない暖かい地方へ移動し、市街地の公園や庭先でも見られる。藪を好み、地上を小刻みに跳ね歩いて草の実を食べる。頭の冠羽を立てて周囲を警戒し、人が近づくとすぐに藪へ逃げ込む。
- 黄色い腹。オスの頭は緑灰色、メスは黄色い眉斑が明瞭。チョッピンチーチュルリーと鳴く。

クロジ<スズメ目ホオジロ科>



- 小牧山、ふれあいの森
- 夏期は北海道～本州中部の山地で繁殖し、冬期は積雪のない本州西南部～南西諸島に移動して越冬する。越冬地常緑低木が茂る暗い林に生息。地上を飛び歩きながら草の種子をついばむが、昆虫やクモなども捕食する。警戒心が強く、人が近づくと藪の中に逃げ込む。
- 肉色のくちばし。夏のオスは全体に暗青灰色、冬はやや淡色。ホーイ、チュチュピーとさえずる。地鳴きはチッ、チッ。

ソウシチョウ<スズメ目チメドリ科>



- ふれあいの森
- 中国南部からインド原産。飼い鳥が放たれて、もしくは逃げ出して野生化したもの。低山から山地の林床を笹が覆う落葉広葉樹林で生息する。
- 背は暗緑色。眉斑から頬は薄い黄色、のどは黄色、胸はオレンジ色。翼に黄色と濃い赤の斑がある。鳴き声はヒュローン、ヒュローン、フュ、ヒッ、フッ、フフュと何種類かある。

セキセイインコ<インコ目インコ科>



- 小牧山 (2021.8.27)
- 原産地はオーストラリア。ペットとして飼われていたものが逃げ出し野生化したもの。和名の語源は最初日本に来たセキセイインコの背が黄色と青（背黄青…セキセイ）だったことに由来する。
- 胸から腹、腰までは黄緑色、尾は緑色または青色。ピュイ、ジジジ、ギギギ、ギャギャギャ、ギャーギャー、キュッキュツ、キュー、クルクルなどいろいろな鳴き方をする。

コハクチョウ<カモ目カモ科>

## 附 録

### 【周辺市町で見られた鳥】



- 木曽川（犬山市 1992.12）
- 北日本や日本海側に飛来する冬鳥ですが、愛知県では毎年木曽川河口に飛来する。越冬地の木曽川河口に向かう途中であったと推測。真っ白な成鳥が3羽、頭部の黒い若鳥が3羽の計6羽が飛来。このようにつがいと若鳥からなる家族群の群れで行動する。
- 地上でついばむ、水面でくちばしをこすようにして水草の葉や実、根や茎を食べる。コオー・コオーと短めに鳴く。

オシドリ<カモ目カモ科>



- 蓮池（犬山市）
- 北海道、本州、九州、沖縄で普通に繁殖する。市内での観察はなく、近隣の犬山市や春日井市の池や川に飛来し越冬する。越冬期には群れをつくって生活する。
- ほかのカモ類よりもよく木にとまり、樹上をねぐらとする。水生昆虫なども食べるが、草の実とくにドングリを好む。オスは頭部の特徴や帆状の風切（いちょう羽）が独特である。鳴き声はクイツ・クイツ、飛翔中はグァと少し濁った声で鳴く。

カワアイサ<カモ目カモ科>



- 木曽川（犬山市）
- 冬鳥としてほぼ全国に飛来。広い湖沼や河川に数羽～数十羽の小群が見られることが多く、海に出ることは少ない。水中に潜って魚を捕食。頭を水中に入れて魚を探しながら泳ぐ。
- くちばしと脚が赤く、オスの頭部は緑黒色でガッガつと鳴く。

クイナ<ツル目クイナ科>



- 新郷瀬川（犬山市）
- 夏に北海道～本州北部で繁殖し、秋に暖地へ移動し越冬する漂鳥。警戒心が強く湿地の草むらにすみ容易に姿を見せない。水田や葦原などの水辺を好み、歩いて昆虫、小魚、草の実などを採食。
- 頭上から体の上面はオリーブ褐色で黒い縦斑があり、顔から胸は青灰色、くちばしは長い。素早く走り、飛ぶことはまれ。

バン<ツル目クイナ科>



- 新郷瀬川（犬山市）
- 夏鳥として全国に飛来するが、関東地方以南では越冬するものも多い。湖沼や川、水田などの水辺を好む。警戒心はあるが、他のクイナ類ほど強くなく、公園などでは人に慣れているものもある。水草、昆虫、貝などを食べる。
- 鮮紅色の額板とくちばし（先端は黄色）。体は黒紫色、脚は黄緑色で腿が赤い。

タマシギ<チドリ目タマシギ科>



- 新郷瀬川（犬山市）
- 本州中部以南の各地で繁殖する留鳥だが数は多くない。休耕田や水田に住み早朝や夕方に昆虫や草の実を採食する。用心深く危険を感じると身をふせる。一妻多夫で繁殖する。
- 目の周囲から後方にメスは白色、オスは黄色の帯。胸から肩の白線と背の黄緑色線が特徴。コーコー、コーコーと連続して鳴く。

アカショウビン<ブッポウソウ目カワセミ科>



- けがをした個体を春日井市内の河川で保護。(2009.9.15)
- 全国に飛来する夏鳥だが、数は少ない。平地や低山の広葉樹林をすみかとする。溪流や湖沼で小魚やサワガニ、カエル、カタツムリ、オタマジャクシ、トカゲ、昆虫などの小動物を捕食する。
- 赤い体、太く長めのくちばし、紫色の光沢がある翼。青緑色のある腰。キョロロロロ……、キョロロロロロ……と鳴く。

## ミソサザイ<スズメ目ミソサザイ科>



- 本宮山（犬山市）
- 北海道～九州の山地で繁殖する留鳥。樹木がよく茂った薄暗い場所を好み、地表付近で昆虫やクモなどを食べる。コケを集めて木の根などに球形の巣を作る。
- 全身が茶褐色のとても小さな鳥。丸い体から突き出した太くて短い尾。チルルルーツー、ピャピャとよく通る美しい声でさえずる。

## おわりに

野鳥観察のアマチュアが作った図鑑のため、記載事項に不備があるかもしれませんが、この図鑑がきっかけになり小牧市内の野鳥について興味・関心を持っていただき、自然環境に触れる機会が増えることを願っています。

この図鑑をご覧になり小牧市自然環境観察人の活動に関心を持たれた方は、小牧市のホームページの「小牧市自然環境観察人について」をご覧くださいと思います。小牧市自然環境観察人は随時募集していますので、下記記載の環境対策課まで申し込み願います。

○編集 小牧市自然環境観察人  
○発行 小牧市 市民生活部 環境対策課  
小牧市堀の内三丁目1番地  
0568-76-1136

□2024.02 加筆修正  
□2024.08 加筆修正  
□2025.12 加筆修正